

「若狭の自然の中で 青空教室＜不登校児童生徒支援事業＞～東海市との連携～」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
—	—	13名	13名

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- 課題を抱える児童・生徒が、若狭湾の雄大な自然と触れ合うことでエネルギーを充電し、参加者相互（参加者同士・ボランティア・スタッフ間）の交流を図り、チャレンジしようとする意欲を高める。
- 課題を抱える児童・生徒が自然体験活動を通して、より良い効果を得られるようなプログラム開発を行い、近隣青少年教育施設・教育委員会・学校等にプログラムの提供及び発信をしていく。

◆期日・期間

平成30年9月15日（土）～17日（月）〈2泊3日〉

◆連携機関

東海市教育委員会（適応指導教室：ほっと東海「横須賀教室」「上野教室」）

◆参加者分析

- ・東海市適応指導教室（ほっと東海）に通っている児童生徒（13名）及び、適応指導教室（ほっと東海）スタッフ（10名）、東海市の大学生ボランティアスタッフ（7名）と卒業生ボランティア（4名）の計34名の参加であった。
- ・昨年度より、事前に児童・生徒と大学生ボランティア（東海市）との交流を深め、この青空教室に臨んでいる。子供たちは若狭湾に来た時から、東海市の大学生ボランティアの方と打ち解けており、安心して様子であった。
- ・昨年度に引き続き、女子の割合が多かった。

◆企画のポイント（日程・特色など）

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
9月15日（土）				東海市役所を出发			到着 昼食	はじまりのつどい	体験活動① アイスブレイク	・散策 ・塗り書き ・まき割り など		野外炊事 ・カレーライスづくり		体験活動②	・ナイトハイクなど ・星空観察	ミーティング 入浴		就寝
9月16日（日）	起床	朝のつどい	朝食 清掃	体験活動③	・スノーケリング ・シーカヤック	・磯釣り ・サップ など	昼食	体験活動④	・スノーケリング ・シーカヤック	・磯釣り ・サップ など		入浴	夕食	体験活動⑤	・室内スポーツなど ・海苔観察	ミーティング		就寝
9月17日（月）	起床	朝のつどい	朝食 清掃	体験活動⑥	・ハイキング ・クラフト活動	・クラフト活動 など	昼食	おわりのつどい	出発			東海市役所に到着						

- ・東海市適応指導教室では、「リフレッシュ&チャレンジ」というテーマを決めて、本事業に臨んでいる。目の前に広がる若狭の海に徐々に近づきながら、自然の中で子どもたちが心を開放し、自然体験を通して少しでも「できた」と思えることを増やしてもらえようプログラ

ムを工夫することを心がけた。

- ・ 子どもたちの自立を促すため、それぞれの興味・関心をもとに海での活動内容を「自分で決める」ことを大切に、選択活動ができる構成にした。
- ・ 普段できない野外活動を体験するとともに、協力すること、任された仕事を最後までやり切ることをねらって、食事には野外炊事を取り入れることとした。
- ・ 海型施設であること、また、子どもたちが海活動に大きな期待を寄せていることから海活動を中心にプログラムを組んだ。

◆運営のポイント

【活動プログラムについて】

- ・ 生活習慣が確立できていなかったり、集団で活動することが苦手だったり個々が抱える課題もそれぞれのため、集団生活の基本的な線は大切にしつつも、子どもたちがゆったりとした気持ちで過ごせるよう、プログラムを詰め込まずゆとりがもてるよう配慮した。
- ・ 子どもたちは普段の生活において海と関わるのが少ないため、海活動の内容を固定せず、いくつかの選択肢を準備しておいた。
- ・ 海況、気象状況が悪い場合でも、浜辺の散策など海と関われるようにした。
- ・ 昨年度、初めて取り組んだ野外炊事で、子供たちの協力する様子が見られたということから今年度は1日目の夕食を野外炊事（カレーライスづくり）とした。

【安全管理について】

- ・ ペアやグループを作り、常に子どもたちとボランティアスタッフが一緒に活動を行えるようにした。
- ・ 1日の終わりのふりかえりでは、子供たち個々の様子を職員やボランティアで細かく確認し合い、次の日のサポート体制について共通理解を図れるようにした。

3. アンケート結果

(1) アンケート

<参加者>

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	62%	38%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	77%	23%	0%	0%
この事業の進め方はどうでしたか	46%	46%	8%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- 海がきれい。
- 人と人との距離が近くてびっくりした。でも、楽しく過ごせた。
- 楽しい。
- 天気が変わりやすい。
- ボランティアの人とかもやさしかったし、楽しかった。また行きたいと思った。
- 起きる時間をもう少し、おそくできませんでしょーか。
- またきたい。

4. 成果と課題

- 青空教室への参加者は、学校へ戻る子が多い。
- 他人と接することが苦手だった子が、しだいに仲間と触れあう様子が見られた。交流会→本番という流れの中で徐々に苦手意識がなくなっていったものと思われる。ボランティアのおかげである。
- 子供とボランティアとのななめの関係がよいのではないか。ボランティアの存在が、子供たちの成長にとって必要である。温かい雰囲気の中で、できなかったことができるようになる（ゲームの時など）様子が見られるという価値を感じてほしい。
- 落ち着いて話を聴く場所として「研修室3」を活用することができた。慣れない環境で

の新たなチャレンジに取り組む子供たちにとって、落ち着いて説明を聴き、活動前に見通しをもつことが大切だと感じている。今後も、このような空間を確保したい。

- 天候に恵まれた。海の状況も最高によかった。それだけで子供たちやスタッフなど、みんなが楽しく海の活動に取り組むことができた。
- 活動中に休憩したい子供も出てくる事がある。例えば、野外炊事の時にどうしても煙が苦手な子もいる。そのような時にすぐに休める場所（ログハウスなど）を確保しておきたい。「つらくなったときどうするか」という具体的な行動を事前に示すことを、注意深く行うべきである。
- 2日目の、海活動が午前・午後と続く場合、昼食は食堂食ではなく弁当にすることで着替えをすることなく、好きな場所で食べられて良いのではないか。特に今回は、天候も良かったため、十分外で食べられる状況であった。

5. 活動の様子